

[平成18年度普及に移した技術]

[普及に移す技術名] 直播の定着条件

[要約] 直播に取り組む中小、大規模経営者ともに、取組み理由として労働軽減効果を挙げ、必要性も認めているが経営的な評価は高くなく、定着には経営的メリットが必要である。一方、取り組んでいない経営者は、直播のネックに、田面均平、雑草発生、収量不安定を挙げ、これらの克服が導入・定着の鍵になる。

[キーワード] 水稲、低コスト、省力、直播、農業経営

[担当] 福井農試・作物・育種部・作物研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100、電子メール yoshitada\_kitakura@fklab.fukui.fukui.jp

[分類] 参考

---

[背景・ねらい]

米消費量の減退や農産物流通の国際化に伴った米価の低迷とともに、農業従事者の高齢化や後継者不足はさらに進むものと予想され、これらの対策として、直播栽培への期待はますます高まる方向にある。そこで、生産者（10ha未満経営の中小規模農業者と10ha以上経営の大規模農業者）を対象に直播栽培を導入するための技術・経営・社会的要因についてアンケート調査を実施し、直播栽培の定着条件を解明する。

[技術の内容・特徴]

1. 直播に取り組む農業者の意向（中小規模農業者と大規模農業者）

- 1) 直播への取組みの主な理由は、「田植の作業強度の軽減化」、「田植時期の労働力不足対策」や「投資抑制」等を挙げている（図1）。
- 2) 直播の取組みについては、80～90%が必要性を認めている。
- 3) 直播に期待する収量は、500kg/10a程度で、移植栽培と比べ限界の減収量は50kg/10a程度である（表1）。
- 4) 直播の収量安定に必要な技術対策は、「田面均平」、「水管理」、「雑草対策」等を挙げ、これらの克服が導入拡大の鍵になる。
- 5) 直播の経営的評価は、中小規模農業者の方がやや効果を認めているものの、両方の農業者ともに「どちらとも言えない」が多く（表2）、導入促進のためには、経営的なメリットとなる所得拡大の方向（規模拡大、組織化、投資軽減等）を導く必要がある。

2. 直播に取り組まない農業者の意向（10ha以上の大規模農業者）

- 1) 直播の取組みについては、約25%が必要なしで、75%が必要だがネックが多いとしている。
- 2) 直播の必要ない理由は、「初期管理困難」が多く、次いで、「減収」、「過剰投資」の順である（図2）。
- 3) 直播のネックは、「田面均平」、「雑草発生」、「収量不安定」、「鳥害発生」が主で、これらの克服が導入の鍵になる（図3）。

[技術の活用・留意点]

1. アンケートの対象にした中小規模農業者は、県内のあるJA管内の経営規模10ha未満の農業者、大規模農業者は、経営規模10ha以上の県内の認定農業者である。

[ 具体的データ ]

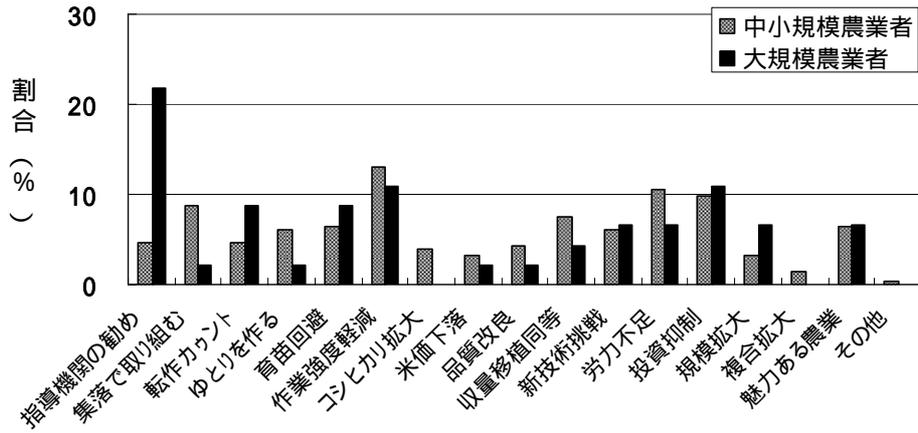


図1 直播の取り組み理由

表1 直播の希望収量と移植との限界減収量

区分	希望収量 (kg / 10a)	限界減収量 (kg / 10a)
中小規模農業者	490	54
大規模農業者	498	48

表2 直播の評価

区分	質 問	意 見 (%)					総回答数
		そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そうは思わない	
中小規模農業者	a.直播の技術は難しい	6.9	20.6	20.6	41.2	10.8	102
	b.直播に満足している	17.0	20.8	39.6	15.1	7.5	53
	c.直播の導入により農業経営は良くなった	7.9	19.8	52.5	9.9	9.9	101
大規模農業者	a.直播の技術は難しい	9.5	9.5	9.5	57.1	14.3	21
	b.直播に満足している	14.3	14.3	38.1	19	14.3	21
	c.直播の導入により農業経営は良くなった	0	14.3	33.3	33.3	19.0	21

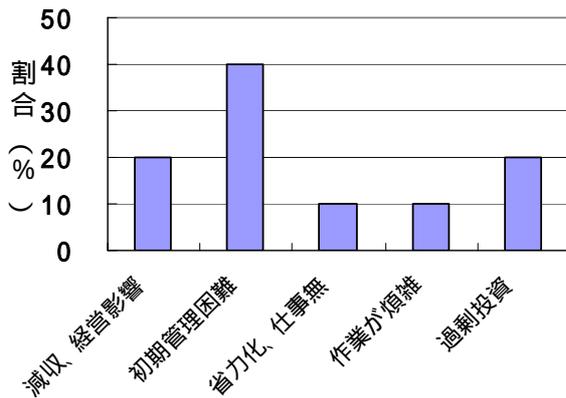


図2 直播の必要ない理由 (取り組まない大規模農業者)

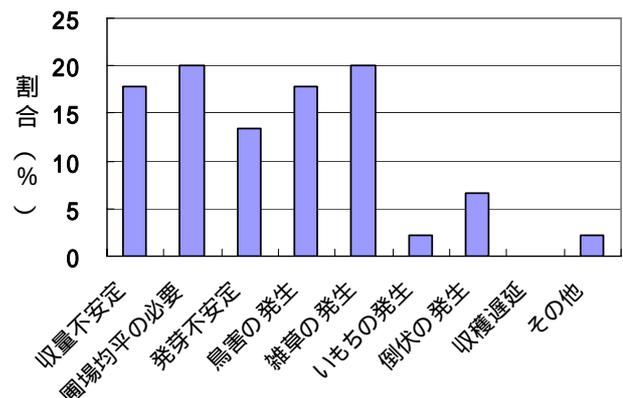


図3 直播のネック (取り組まない大規模農業者)

[ その他 ]

研究課題名: 直播定着のための推進手法と収量、品質の高位平準化技術

研究機関: 2003 ~ 2006 年度

研究担当者: 北倉芳忠、松浦正躬、林 恒夫、小島佳彰